

回胴倒錯者

- PACHISLO FREAK -

攻略法

その日は、S君からの電話で目覚めた。S君「なんか面白いことが雑誌に書いてあるんだけど、ファイヤーコングって台で、ある打ち方をすれば千円で40ゲームは余裕で回るらしいよ。」

私「うわ、梅田にファイヤーコング入ってる店あるから、一緒に見に行かへん？」私「ええよ。暇やしな...」

このときの私の反応はかなり適当だったのを知っている。興味が無いとか、ピンと来なかったのだから。S君もあまりピンと来なかった様子だった。

梅田までの電車の中で雑誌を見て打ち方を覚える。二人して「へー、ふーん」程度で全くその威力を理解していない。雑誌には「この打ち方をするだけで、設定1でも機械割りは余裕で100%を超える！」と書いてあったが、「そんな訳ねえ」としか思えなかった。

そして目的の店に到着。そこにはファイヤーコング(オリンピア)が8台ほど設置されており、意外に空台も結構あった。座っている人のなかには、雑誌を広げながらその打ち方を実践している人も何人かいた。私たちも適当に着席し早速実践する。右押しをしつつ、ビタ押しなどを行うのだが、多少アウトでもそれなりの効果はあった。結果、かなり回る。千円あたり40ゲームは優に越えてしまふ。多い時など、100ゲーム近く回るといふ。多ければ勝つのは当たり前前話だ。正直かなりビックリしたのは当たり前の話だ。悪いことをしているような後ろめたさを感じていた。もちろん店員の目はファイヤーコングの島に釘付けで、店員同士が何やら話をしてる。この日の店側の対応は何も無く、フ

ファイヤーコングの島は夕方には満席になっており、いずれの台も頭上にはドル箱の山が築かれていた。

この攻略法はそもそも「成立した小役を制御で取りこぼす」という新機能が搭載されたためにそれを逆手に取り、「成立した小役をすべて取ることが出来る」という夢のような話につながったのである。この新機能は後のAT機ストック機では当たり前のように採用されている。例えば猛獣王では、ほぼ毎回成立している12通りの15枚役を同時に狙うことができず、結果的にほとんど取りこぼしてしまふ。しかし毎回の小役が取れればしまえば大変なことになる。毎ゲームがサバチャンということだ。またストック機では、すでに成立したボーナスを揃えられなくするために、内部的にリプレイが成立している。しかしボーナスどころかリプレイすら揃わない。これは制御によるもので、どうしようもない。しかしリプレイを毎回揃えることができれば、解除ゲームまでリプレイが続きコインが減ることは無い。今回の攻略騒動は、極端に言えばこの2つの例が合わさったような超弩級の攻略法であったのだ。

このように破格の攻略法であったため、当たり前のように次の日以降、変則押し禁止、島閉鎖などの対応が行われたのだ。このファイヤーコングという機種は、全国的にも導入店が少なくあまり大きな話題にはならなかったが、その直後に発売された「ビナスライン」(オリンピア)という機種でも同様の攻略法が使用可能で、こちらは全国的に導入されていくので相当な混乱が起きていた。瞬く間に島閉鎖などの対応が行われたため超短命な機種であったが、台としての出来栄えは非常に秀逸で、攻略法を使わず普通に打つても十分おもしろかった。そういう意味での惜しむ声が無かったのも事実である。



ファイヤーコングとピンナスライン(オリンピア)強力な攻略法が発覚した2機種。ピンナスラインは攻略法を抜きにしてもかなりの名機で、その後リメイクもされている。

私がこの攻略法を使用したのはたったの1度であったが、実際このような攻略法が存在することに驚きを隠せなかった。そういえば昔コソさんに信じられないような攻略法を聞いたことがあった。それはストップボタンを押すのではなく、リール盤面を押すのである。信じられないようなこの攻略法は実際に存在した。左右で7をテンバイさせ、思いっきり盤面を押す。すると盤面が中リールに擦れ、リールが止まりそうになるらしい。そして擦れながらジリジリを進んでくる7がテンバイラインに来たとき、力強く画面を押すと共に中リールストップボタンを押す。すると見事に7が並びボーナスが始まるというのだ。何と云うか、そんなのあり？と感じたが、これは攻略法でもあるかもしれないが、ボタンではなく画面を押すのでゴト行為になりそうである。しかしそんな意外なことにも攻略法が存在するのは事実である。私は今でもこの日以来、何か攻略法はないかと新しい台を打つたびにいろいろ意味不明なことを試し、攻略法を探し続けている。もちろんいまだに発見はできていない。

イカとワニ

その後は変わりなく、火花を打ち上げる毎日の繰り返し。さすがにこの頃になるとコンドルタコスロの引退も目立ち、高設定を掴めそうにないので全く打たなくなっていた。ハナビ本では心細く、新たな食える機種を模索していた。そしてこういふ時に一番使えるS君に相談である。食える機種を聞くと、「ワニマル」(バルテック)と「テナタクルズ」(瑞穂製作所)との返事が返ってくる。前者はそれほど難しくないが、ハズシを駆使すると機械割りがかなり高いらしく、後者はとにかく難しいらしい。もちろん私が俄然やる気を出したのが後者のテナタクルズ。しかし残念なことにはほとんど導入されておらず、お目にかかることが難しかった。仕方なく前者のワニマルを探す。J駅の商店街にひっそりと導入されているとの情報を得て、急遽直行。そこには何か懐かしい匂いのする、少し型遅れのような筐体が8台ほど並べられてい



ワニマル(バルテック)「型遅れの筐体」だが、スペックはかなりのポテンシャルだった。

た。良心的なリール配列で、違和感なく打てる。そしてかなり面白い！上部ランプと予告音が絶妙に絡み合い、それをさらに楽しませるリール制御。本当に飽きさせない。しかも予告の時や予告なしの時でも左リールを止めるのが、何かワクワクと期待させてくれる。そしてハズシを行えば500枚を越えることも多いBIG。適当押しだと400枚位なので、100枚ほど多く獲得できる。あまり有名でもないし人気も薄かったが本当に甘い機種だった。しばらく同店に通い詰めだったが、「オール設定1?」のような状態になったので退却と相成った。

そして次のターゲットは再び「テナタクルズ」(イカがモチーフ)。どうしてもその「ありえなく難しい」台を打ちたかったのだ。いろいろ探し回ってようやく発見。それは超高性能ビタ押し娘、Wさんに電話したときに聞いたのだ。「ああ、イカの台やろ？新宿行つたとき見たよ。」よし、新宿に行こう」と即決した。そしてWさんにもそのイカの生感について詳しく説明してみた。もちろん打ちたがるのを分かって説明したのだ。案の定その話に乗ってきて、一緒にイカとの格闘を約束したのであった。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕の種まで直視できるほどの異常っぷり。



次回予告

幾多の難しい機種を制覇してきたA氏。はたしてその「ありえなく難しい」イカとの戦いはいかに!?そして愛弟子Wさんの結果は？次回「極み」をうご期待！

5号機を楽しむ

(スカイラブの巻)

私が「スカイラブ」を初めて打った時、ゲッツ!!の編集さんにごう言いました。「この機種は設置する店が増えるに違いない!」と。しかし、実際はそうでもなかった...。それは何故なのか？私はいまだに理解することができません。

様々な5号機を打ちましたが、「これ程すばらしい仕上りの機種はない」と初めて打った時にそう思いました。今でもその時以上にそう思います。連チャン機を彷彿とさせるトレジャータイムの抽選システム、意味のない演出はあるものの、それなりに納得のいく演出。5号機で目一杯の技術介入やビッグ中に退屈せないための選択可能なボーナス演出。そして最大の出来栄えがリール制御にあるのではないかと。あの微妙、か？絶妙な制御を理解している人は意外に少ないと思います。その制御について私が発見したものを少し紹介しましょう。まず左リールにはスライカが1つなのでそこを狙う。よくあるチェリーの枠内押しです。3コマ以上へればスライカがボーナス。ここでリール制御ですが、実はリチ目非常に重要にしているのです。ここでチェリーを上段もしくは中段に押しければボーナスの察知が非常に楽になります(チェリー否当選なら左下段に黒ラブ停止。左下段黒ラブ(2コマスベリ以上)からのリチ目は、右上段に赤アが青7停止で小役ハズレでボーナス確定。白黒ラブ絵柄が右上に停止した場合はその時点でボーナス確定となります。中リール中段ベル停止時(中リール上段黒ラブ以外のベルハズレ)でも確定。ここまでは気づいている方

もみえるのではないのでしょうか。しかし次のリチ目はなかなかシビア。というか感性に近いものがあります。左下段黒ラブ時、ハズレでも出現するような演出であるにも拘らず、中リールと右リールに「妙な」スベリが発生した時。中段にリプレイがテンパイしていたら更に怪しい。しかもない演出を伴いつつ、「ん？何か中右が妙にスベったよな...」と感じたら怪しんで結構。私の場合、そう感じた時の多くがボーナスでした。とにかく、何か「妙な」違和感を覚えるのです。この制御がはたしてメーカーがわざと作ったのか、偶然的な産物なのかはわかりません。5号機を盛り上げるためにメーカーも様々な機能を考えています。5号機でも万枚出る!というのがウリの機種、液晶にやたら力を入れたものなど、様々な工夫が見られます。それぞれ打ち手の好みがあるでしょうが、スカイラブは液晶制御・ボーナス確率・攻略要素など、トータルバランスの取れた機種の一つだと思います。



スカイラブ(SNKプレイモア)演出、リール制御、RTと全てにおいてA氏太鼓判の機種。